

メガソーラー開発「反対する会」

豊かな里山保全を

調査で希少生物、数多く見つかる

山添

山添村の馬尻山で民間事業者が建設を計画している大規模太陽光発電施設(メガソーラー)に、住民から強い反対運動が巻き起こっている。現場が地元の水源地であることに加え、村などによると、業者から地元への説明もほ



馬尻山の環境を歩き、動植物を調べる「反対する会」の住民ら(山添村)

んどないためだ。住民らで設立した「反対する会」は今月5日に現場で生物調査を実施。希少生物も数多く見つかり、改めて里山の豊かなことを示す結果となった。

経済産業省によると、県内で稼働中のメガソーラー(出力1メガワット以上)は48カ所あり、今回は同村代、春日両地区の山林約81ヘクタールに、県内最大となる50ヘクタールの施設を新たに整備する計画。現場周辺は約30年前にゴルフ場建設のために県内の開発業者が多くの土地を買い集めたという。当時もゴルフ場建設計画への反対運動が巻き起こり、全国各地の同様の建設反対運動の先駆けになったとされる。「反対する会」は2

019年12月に策定。計画に反対する村民の署名も1468筆が集まり、同12月には村議会が全会一致で建設反対を決議した。会の代表を務める向井秀利村議(66)は「ここは給食センターや民家約80世帯が利用する貴重な水源の水源地。住民に説明する努力もしておらず、信用できない」と不信感を募らせる。開発主体は全国でメガソーラーを手がける

3社の合同会社「山・添」(東京)で、14年3月に経産省の認定を受けた。これまでに住民対象の地元説明会などは開かれていないが、同社は村に対し「事業着手は可能だが、住民理解を得ずに押し進めることはしない」と説明しているという。村の担当者は「我々も(開発主と)直接会ったとはなく、代理業者を通じてコメントをもらっているのが

現状。信用するしかない」と話す。5日は会のメンバー約10人で馬尻山を生物調査。耕作放棄地の短地帯からは、準絶滅危惧種にあたるウキゴケやアカカエル、オオコオイムシなどの動植物や昆虫が続々と見つかった。同行した三重県レッドアイタック作成委員で歯科医の武田恵世さん(62)は「ここは今では珍しい豊かな里山の環境が保たれて

いる。簡単に破壊されるのはもったいない」と話し、「売電価格は年々下がっており、利益を出そうとするなら少しでも早く完成を目指すのでは。業者の意図が見えず戸惑うばかりだ」と話した。

毎日新聞は村や構成会社を巡って合同会社に取材を申し込んだが、17日現在返答はない。

【福生 慶】